

世界日報 2006年7月16日 掲載

新憲法は国際主義を柱に

藤井元民主党代表代行が講演

世界日報の読者でつくる「世日クラブ」(会長＝杉本儀一・杉本興業株式会社相談役)は15日、民主党元代表代行の藤井裕久氏を講師に招き、都内のホテルで110回目となる講演会を開催した。

藤井氏は「現行憲法の問題点」と題する講演で「国のあるべき姿を表すものが憲法だ」と指摘、その上で特に安全保障の分野では事実上解釈改憲が先行して「不文憲法」と化している実態を批判、成文憲法の常識として時代に合わせて憲法を改正していかなければならないと強調した。

また藤井氏は現行憲法の最大の問題点として、GHQ(連合国軍最高司令部)の残滓(ざんし)を指摘、被占領国の憲法を尊重すべきだとする1907年のハーグ陸戦法規を例に挙げて、占領行政の不当性を訴えた。

さらに日本が世界に果たす役割として「平和と環境」を指摘、「世界の平和に貢献しようとする日本が、自国の防衛すらできないようでは世界への説得力を欠く。一国平和主義ではなく国際協調主義を新憲法の大きな柱の一つと位置付けるべきだ」と強調した。

講演に先立ち、近藤讓良副会長(近藤プランニング代表取締役)は北朝鮮のミサイル発射などを挙げ、「日本は専守防衛だけでいいのか、懸念される」と述べ、防衛体制のあり方や経済政策、国民道徳の現状に警鐘を鳴らした。